波紋

特定非営利活動法人
教育活動総合サポートセンターだより
「波　紋」　第11号
発行人　藤　田　　力
題字デザイン・山口正勝

発行所　教育活動総合サポートセンター
〒213-0033　川崎市高津区下作延5-11-8
TEL：044-877-0553　FAX：044-877-0980
E-mail：support0731@luck.ocn.ne.jp
ホームページ：http://www16.ocn.ne.jp/~snmi/
印　刷　西桜印刷株式会社
TEL：03-3568-2543

組織力の強化と諸活動の充実

理事長　藤　田　　力

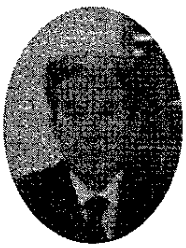
当サポートセンターは10年前に「学校に行きたくても行けずに悩んでいる子ども、勉強について行けない子どもに学ぶ場・憩いの場を提供すること」を目的として、佐々木前理事長はじめ32人のメンバーによって立ちあげられました。財政面も苦しく自らの資金提供によって運営したと聞いております。

設立11年めがスタートした今年度は、78人の活動会員、居場所づくりでは一〇〇人を超す児童生徒の登録となりました。設立時の目的を土台とし「子たちに力を」を合い言葉に所員一同心して取り組んでまいりたいと思います。

今年度の重点課題は認定NPO法人取得にかかわる事業内容の充実と第2サポートセンターの設立準備への協力と考えます。そのため定款項目に合わせた「教育・福祉にかかわる相談事業など九つの事業に組み替えるとともに、昨年度の活動方針「組織力の強化と諸活動の充実」を受け、各セクションに副理事長をおき6人体制としました。また、前理事長の佐々木武志先生のご努力により文部科学省委託「いじめ対策等生徒指導推進事業」が受けられたことを糧とし全活動会員の研鑽を積みたいと思います。

今後とも皆さまのご支援とご指導をお願いいたします。

設立10周年の節目をむかえて



子ども自身が自分の力で課題を解決していく力を身につけるため「子たちに力」を合言葉に、設立以来学習の支援を続けてきました。平成16年、川崎市教育委員会より委託を受けた「教育サポーター配置事業」、平成17年文部科学省より委託を受けた「不登校児童生徒の学校復帰を目指した研究」、この二つの事業が今日のサポートセンターの基礎を築いてきたように思います。おかげさまで学校現場から感謝され、様々な機関からも協力をいただくことができました。

この10年の節目の年に、新しい試みとして「福祉と教育の融合」を目ざした文部科学省の研究報告会を行ったことと、10周年記念事業で、東京理科大学学長藤島昭先生の講演で盛り上げていただいたことを大変ありがたく思っています。

また、この10年間活動会員の皆さま方のご協力とご支援をいただきましたことに心よりお礼申し上げます。

26年度は役員改正の年にあたり、藤田力先生を新理事長として迎えることができました。サポートセンターのさらなる発展をお祈りします。

（前理事長　佐々木武志）

26年度活動方針・事業計画

「子たちに力を」の法人設立の理念に基づき、各事業が効果的、具体的に活動できるよう組織機能の一層の充実を図る。

1　活動方針

①基礎基本を重視した学習支援の中で学力の充実を図り、また、様々な体験活動を通して、学校復帰や社会参加促進を支援する。

②家庭・学校・地域および関係機関等との連携を深め、相談活動を中心とした社会福祉活動の充実発展を支援する。

③一人ひとりの児童生徒が、心豊かにそして生きる力を身につけられるよう支援する。

2　事業計画

(1)教育・福祉にかかわる相談事業

①教育・福祉相談事業
不登校児童生徒、特別支援児童生徒、不適応、問題行動等のある児童生徒や保護者の相談活動を推進する。

②不登校等に悩む保護者の意見交換事業

③川崎市教育会館・相談事業
不登校やいじめ等の学級・経営上の諸問題について、教員からの相談に対応しその解決を図る

(2)適応指導に関する事業
不登校、問題行動等に悩む児童生徒およびその保護者への支援活動に取り組む。

①こどもサポート南野川事業

②こどもサポート旭町事業

(3)体験活動等に関する事業

①ふれあい活動宿泊体験
不登校児童生徒や何らかの障害のある児童生徒が自ら進んで活動できるよう支援する。

②のびのびファーム事業
農業体験を等して食育教育の充実を図る。

(4)学習支援に関する事業

①学習支援事業
不登校、学習不振に悩む児童生徒に対し個々の能力や特性に合わせた支援を行い、学習への興味関心を醸成し登校力を高める。

③外国籍児童生徒学習支援事業

④生活困難家庭児童生徒学習支援事業
・こどもサポート川崎
・こどもサポート幸
・こどもサポート宮前

⑤キッズセミナー事業

⑥サイエンスキッズ事業

(5)特別支援教育に関する事業

①特別支援教育事業
実態に応じた教材・教具の開発、自立に向けた支援を行うことで社会生活の基礎力を育成する。

②発達障害のある児童生徒の保護者支援事業

(6)研究研修に関する事業

①文部科学省委託研究事業
研究テーマ「不登校いじめをはじめとする問題行動等への対応」
副題～福祉と教育の融合のためのコーディネートのあり方～
これまでの研究成果を基に児童生徒を取り巻く課題解決に向けて研究を推進する。

(7)青少年の健全育成を図るための環整備に関する事業

①初任者研修指導補助事業
新規採用教員の資質向上を目指し

修等指導員を配置することで学校教育の充実を図る。

②教育活動サポーター配置事業
児童生徒の健全な成長に向け、担任教諭の補助活動を行うサポーターを配置する等で児童生徒の学習意欲の向上を図る。

③特別支援サポーター配置事業
学習障害等の児童生徒を抱える学級にサポーターを配置し担任教諭の補助活動を行うことで、児童生徒の学校生活の充実を図る。

④輝け☆明日の先生の会事業
教員を目指す臨任、非常勤教員、大学生等に教師としての資質向上のための講義・ゼミを行う。

(8)講演会等の事業

①不登校児童生徒に関するパネルディスカッション
不登校に悩む児童生徒の保護者、教育関係者を対象に、各分野の専門家をパネリストとして不登校に関する諸問題について意見交換を行い学校復帰を図る。

②不登校等に関する講演会事業

(9)文化活動推進に関する事業

①川崎市青少年の家運営事業
自主事業の充実・発展に努め地域・家庭・学校との連携を図るとともに、市民の文化活動等の増進に寄与する。

②大山街道ふるさと館運営事業
ふるさと館の運営と地域の歴史、民俗資料の展示活動、文化活動、講演活動及び地域住民との連携につとめつつ市民の幅広い参加を図る。

③学校図書館有効活用事業
休日、夏期休暇等の期間、学校図書館を一般市民、児童生徒に開放し読書指導、読書相談を行うことで、市民生活の充実を図る。

平成25年度　文部科学省委託研究

主題「不登校及びいじめをはじめとする問題行動等への対応」
～福祉と教育の融合をめざして～

文部科学省委託事業

平成25年度の研究では、文部科学省からの「いじめ対策等生徒指導推進事業」を受け、冒頭の表題について取り組んだ。柱は、「児童生徒理解のための多面的調査」「個に合わせた指導プログラムによる実践」「支援をめぐる他機関との融合」の3本である。

いじめについて、9月末には、「いじめ問題防止対策推進法」が施行された。当サポートセンターにおいても不登校の理由としていじめ被害を第一とする児童生徒が30％近くおり、対策が急がれている。

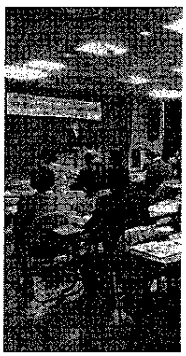
3月の研究報告会当日は、150人を上回る盛況な中で「つなぐ」、つまり専門性をつなぐシステムづくりの必要性が確認された。

研究協議会報告

研究協議会では、「福祉と教育の融合をめざして」というサブテーマにそって活発に意見が交わされた。

各機関から、それぞれの立場や役割に基づいた意見も出され、テーマにかかわる認識を深めることができた。チーム支援の必要性、他機関との協働・融合等の大切さは理屈の上では言えても、いざ実践となると、必ずしも容易ではなく、解決すべく課題も多い。

特別支援コーディネーターをしている方から、「どうつなげるかが、一番わからず難しいところだったので、情報をたくさんもらってありがたかった」という感想もあった。



初任者研修指導員配置事業

川崎市立学校には、毎年、200人を超える初任者が配置されています。サポートセンターでは、総合教育センターから委託されて、退職校長等を各学校に配置し、初任者研修にあたっています。初任者指導員は様々な課題と直面しながら日々奮闘している初任者の応援団です。

「輝け☆明日の先生の会」

サポートセンター主管、総合教育センター主催の「輝け☆明日の先生の会」も8年めを終えました。川崎市の教員を目指す臨任・非常勤・社会人・学生等96人が受講し、活気ある講座・ゼミが展開されました。4月から目を輝かせた30人の出身者が小中高の子どもの前に立ちます。

講座・ゼミを進めるにあたり、NPO会員の皆さまには永年培った教師力、経験をフルに発揮してご協力いただき、感謝いたします。今年もさらに活気ある会にしていきます。

サポーター配置事業

サポーター配置事業も10年めを迎えた。開設当初の30人前後30校ほどの規模から全市113校すべての小学校と51校のすべての中学校から申請書が出され学校への配置人数も600人を超える事業へ発展してきている。学校の希望を第一に迅速な対応を心がけており教育最前線の学校現場から大変頼りにされている。

（鍛冶、對馬、藤田、長澤、高橋）

設立10周年記念式典実施

平成16年7月、「子たちに力を」を合言葉に設立された教育活動総合サポートセンターの設立10周年記念式典・祝賀会が、3月1日（土）、NEC玉川クラブで、200人近い参加者を集め盛大に行われました。

挨拶に立った佐々木武志理事長から、教育現場への支援につながる今日の諸活動に至った設立当初の経緯が紹介されました。

来賓代表の川崎市教育委員会教育委員長峪正人様からは、10年間の事業への賛辞を、また各校種を代表して小学校長会長川崎等様からは、サポーターへの謝意が伝えられました。

記念式典の後半には、設立総会のおりにも講演された東京理科大学学長藤嶋昭氏による「理科を楽しく～身のまわりの現象に興味を持とう～」という演題での記念講演がありました。

祝賀会は川崎市退職校長会会長田中庸之氏の祝辞、同退職教職員の会会長川口重治氏による乾杯の発声、井口・宮田両歴代理事長のお話と続き、最後に前市長の阿部孝夫氏の万歳三唱で、盛会のうちにお開きとなりました。

川崎市青少年の家

○「エコチャレンジクラブ」
○レッツチャレンジ昔遊び
○子ども運営委員会
○よちよち歩きの子あつまれ
親子リトミック、おはなし会、親子人形劇
○プール開放
○シニア卓球
○放課後おもしろクラブ
○青少年の家フェスタ
―常に向上をめざして―

学ぶ喜び　楽しさ　いっぱいの子たち

楽しかったサイエンスキッズ

わたしは、1月18日に万げ鏡とへん光万げ鏡を作りました。黒いシートを回すと、色が変わり、セロハンテープをはったとう明のシートを回すと、色・形・広さなどが変わって不思議でした。セロハンテープを重ねるとステンドグラスみたいで楽しかった。

また、1月25日には、ぶんぶん回転そうちとベンハムごまを作りました。コマが白と黒のもようなのに、むらさきや黄色のもようになったのが不思議でした。回る速度がちがうと色が濃くなったり、薄くなったりしました。ちがうもようでもっとやりたいと思いました。

（小3　N・A）

勉強が楽しくなる

私は、サポートセンターに来て勉強がとても楽しくなりました。前に勉強が苦手で、学校でわからなかったところを家で復習しようと思っても一人じゃわからないし集中できませんでした。でも、サポートセンターに来たらわからないところも先生と一緒に解けるし、学校の解き方よりもわかりやすい解き方を教えてくれました。そして、学校で活用することができました。これからは、サポートセンターで習ったことをいかして中学校でもがんばっていきたいと思います。

（小6　M・F）

ぼくの変化

2年生の時にサポートセンターに来ました。その頃の事は、よく覚えていませんがよく動き回っていたそうです。手も足も出て、片時もじっとしていられなかったようです。勉強どころでは、ありませんでした。

3年生になってサポートセンターをやめてクリニックに通いはじめました。

母は、ぼくが何をしても「だめ」と言いませんでした。お兄ちゃんは、「見すてられたんじゃないの」と、言いました。ぼくは、どうでもいいと思いました。しかし後でお母さんの愛情だと気づきました。

（小6　T・O）

苦しさ乗り越えて

―サポートセンターとの出会いに感謝―

息子は中学1年の秋、いじめにあってから不登校になりました。その状態が半年ほど続きましたが話し合いの結果転校することとなりました。転校後も状態は変わらず保健室登校が1年ほど続いたある日、担任の先生より、スクールカウンセラーの先生を紹介されました。少しずつではありますが息子は自分の気持ちを話せるようになりました。カウンセリングがはじまり数か月経過した頃、スクールカウンセラーの先生からのお話がきっかけとなり、サポートセンターを知りました。はじめ息子はその場所へ行くことに抵抗があったようで何度も先生の説明を聞き高校進学を目標としていた息子にとって学校以外で学べる場所であると理解し通学が始まりました。はじめは緊張していた息子にも笑顔が見られるようになり予定時間より一時間も早く到着したり、自ら勉強に対し前向きな姿勢が見られました。

そして息子は、自分の力で立ち上がることの大切さを学んだのではないかと思います。それは諸先生方の温かいご指導によりまた、心から信頼できる先生方と出会えたからです。先生方は常に息子の気持ちに寄り添い理解する努力を惜しまず接してくださいました。息子にとって「安心できる居場所」でした。そして今年の春無事に高校に入学することができ親子ともどもサポートセンターの先生方には感謝の気持ちでいっぱいです。本当にありがとうございました。

（中3母　Y・E）

生き物の販売店を開く

ぼくの未来の夢は、生き物の販売をすることです。なぜかというと、生き物が大好きだからです。

今、ぼくは、ヘビやこうもりなどを飼っています。みんなは、「なんでヘビやこうもりなの？」といいますが、ぼくは、ヘビやこうもりのからだつきや動きが、おもしろくて不思議でならないのです。

これまで飼っている途中に病気などで何匹も死んでしまいました。すごく悲しかったのです。でもぼくは、この経験から命の大切さを学んでいます。

将来、生き物を扱うようになったら、飼育の仕方を教えてあげたいと思っています。

（中3　E・G）

心理カウンセラーをめざして

私の将来の夢は、心理カウンセラーになることです。何故こういう夢を持ったかというと、私自身が心が弱っている時にもカウンセラーが話を親身に聞いてくれながら的確なアドバイスをしてくれたために、何度も助けられたからです。そこから、私も自分と同じような事があった人たちの力になれたらと思うようになりました。将来の夢に向け、今まで以上に周りとの関係を大切にしていきながら、専門的な勉強をしていきたいものです。

そして、少しでも多くの人の心を支えられ、悩みを持つ人と一緒にステップアップしていけるような心理カウンセラーになりたいものです。

（中3　M・M）

高校を卒業しました

わたしたち4人は、3月末にI先生の呼びかけで集まりました。4人の共通点は、中学時代に不登校だったこと今年の3月に高校を卒業し、それぞれの進路が決まっていること、サポートセンターがなかったら今の自分はないという事です。

Mさんは、大妻女子大学情報デザイン専攻科でシステムエンジニアを学びます。

ぼくは、東京環境工科専門学校自然環境保全学科に進みます。

Sくんは、聖マリアンナ医科大学に就職です。

Nくんの進学先は、東京観光専門学校鉄道サービス学科です。

お世話になりました。今後、ふれあい活動などで手伝いができたらうれしいことです。

（T・M）

人生は学ぶことである

N中学校の夜間学級で出会ったRさんを、思い出すことがある。その当時すでに60歳を超えた女性であった。戦中戦後の混乱の中、義務教育を終えてなく、ようやく生活も安定し、読み書きができるように強く望み、中学校へ入学してきたのである。一日も休むことなく、中学校を卒業すると、さらに高校の定時制までも卒業し、ついには、自分史を自費出版したのである。

人生は、学ぶことであると、教えてくれたと思っている。

（サポーターY・N）

教育相談・適応支援のご案内

当サポートセンターの教育相談には「子どもが学校生活の中で困っているようだ」「子どもの生活習慣の乱れが心配で」等の相談、また「学校の勉強について行けない」「朝学校に行こうとすると、お腹が痛くなる」など、子ども自身が抱えている様々な不安や悩みに関する相談が多く寄せられます。

平成25年度の相談受理件数は保護者や子ども、関係する各機関を含めると500件を超えています。相談内容を分類別で見ると「勉強がわからない」「学校に行けないけど勉強はしたい」「進学について悩んでいる」といった学習に関する相談が多くを占めています。

このような相談については当センター内の学習室を見学していただき、子ども自身の気持ちと希望を確認した上で、学習内容と学習担当者が決めて学習支援をしています。これまでも、子どもたち一人ひとりが、それぞれに学びの意欲を高め、着実に力をつけています。

また、適応支援の一環として「ふれあい体験活動」を年5回実施しています。（宿泊3回、日帰り2回）スポーツ調理活動、栽培活動などを通して子どもたちはいつの間にか友達同士になり、本来の明るさや元気な姿を見せるようになります。

・相談受付
教育活動総合サポートセンター
・電話受付　月～金、9時00分～17時00分
（土日祭日、年末年始を除く）
・所在地
〒213－0033
川崎市高津区下作延5－11－8
TEL044－877－0553
（相談・適応部長　柴田壽直）

こどもサポート南野川

「こどもサポート南野川」は創設6年めを迎えました。0歳から18歳までの子どもたちの包括的子育て支援事業として宮前区が設置、昨年度からは市の事業としても位置づけられました。

恵まれた自然環境の中で不登校・ひきこもりの子どもたちは「踏み出してみよう。まず一歩」をスローガンに、徐々に自信をつけ、笑顔を取り戻しています。支えてくださる関係の方々に感謝しつつ地域に根ざした場をつくります。

大山街道ふるさと館

平成26年から5年間、公益財団法人川崎市生涯学習財団と連携をとって運営・管理をすることになりました。

それに伴って、講演・講座事業、各種の展示事業を拡充、地域活性化事業の推進など盛りだくさんの計画を順次、遂行していきます。

また、小中学生に郷土愛を育む事業として「子ども探検クラブ」、近隣校へ出前授業街道・地域学習受け入れ事業などを精力的に展開していきます。

支援をデザインする

支援を必要とする子どもに必要な内容とタイミングを図りながら支援する取り組みが「教育のユニバーサルデザイン（以下デザインとする）」として、提唱されている。当サポートセンターでは、当所を学びの場所としている子どもたちに設立当初よりこのデザインを基に支援している。福祉と教育の連携から始まった支援が、現在は協働から融合へとデザインが進みつつある。

ここで1事例をとりあげる。小学生のC男はいじめによる不登校を3年間貫いていた。このC男の足を教室へと向かわせたのは次の一言であった。

「あなたには、一人でも学んでいける力がある。欠けているのはクラスの中で皆と学んで得る力だ。ここではその力をつけてあげることはできない」

この一言に至るまで、学校を中心に保護者を含む五つの機関が一堂に会し、C男の支援についてそれぞれができることを検討する会議を開いた。また、C男と学校を包む地域も、他ではできない力を発揮してC男の背中を押している。

（研究部長　石原由美子）

こどもサポート川崎

生活保護世帯の学習支援・居場所づくり事業として、24年度10月旭町教室がスタートしました。翌25年度は、幸区・宮前区の2地区にその活動の場を広げ、3教室合わせて計62人の中学生が学習会に参加しました。

学習会では、学習サポーターが生徒と一対一で学習支援を行っています。また、学習会の回を重ねるごとに生徒同士の横のつながりも深まり、子どもたちの居場所づくりとしての役割も果たしています。

こどもサポート東小倉

外国につながる児童生徒の日本語の支援や居場所として平成24年9月に東小倉小の多目的教室を借りて、「こどもサポート東小倉」を開設。

当初は4人の児童でスタートしたが、現在は母語を韓国語、中国語、英語とする9人の児童生徒が来室して、水曜日に日本語の習得や教科学習に取り組んでいる。保護者も一緒に来室することが多く、情報交換の場ともなっている。支援はNPO職員2人、ボランティア5人で行っている。

こどもサポート旭町

開設4年めの平成25年度は、登録者数の増加、こどもの生活力、登校力に大きな変容を見ることができました。

これは、当所の必要性・要求度の高まりと同時に、スタッフの創意ある教育福祉活動が実を結んだものと思います。

何よりも特筆すべきは、文科省の委託研究とともに歩んできた実践の成果を見ることができたことです。発表事例の児童が進級するエネルギーを高め、「学校へ行けます」と言った姿が焼きついてます。

編集後記

平成25年度は活動会員・賛助会員をはじめ多くの皆さんのご理解とご支援によってサポートセンターの全ての事業を滞りなく終了することができた。本当にありがたいことである。

平成24年度10月から始まった学習支援居場所づくりの事業は25年11月子どもサポート宮前が始まり、3か所での展開となった。この3か所に通っていた41人の子ども全員がめでたくそれぞれの進路先に進むことができた。

来年度は市内7区の全てにこの事業が展開されることになっている。この事業に従事する関係者すべてが、一層研鑽を深め、子どもたちのよりよい未来に資するようにしたいと願っている。

（事務局長　本告）